

【本校教員の授業改善の取組】

11月19日付の福井新聞の記事を読んでいただいた方も多いのではないかと思います。生徒たちが取り組んでいる「あわら考幸学」の校外での調査活動に関する記事です。

生徒たちは、個人やグループで課題を設定し、その解決に向けて取り組んでいます。記事にも触れられていたように、本年度中に発表したり、レポートにまとめたりするために、常に調査や提案を考え、それを必要に応じて市の関係機関や市民に発信することにより、内容のブラッシュアップを図っているのです。

この学び続ける活動そのものに意味があるのです。常にブラッシュアップしていく問題解決の取組こそ、将来の生き方の一つの力となっていくのだと考えています。

本校の教員は、授業の方法を常にブラッシュアップしています。「不易と流行」という言葉がありますが、授業の姿は、これからの社会の在り方を常に意識されたものでなければいけません。戦後から昭和のほとんどの時代で行われていた「講義型」の授業では、均一的な力は身につくかもしれませんが、これからの激動の社会を生き抜くための「真の力」を育てるには向いていないのです。

以前から、本校では「探究」を大事な学び方として大事にしているということをお話してきました。今回はこの「探究」型の授業について、小学校の足し算の学習を例に、教師側の指導法という視点で簡単に説明します。

足し算の勉強では、「 $1 + 1 =$ 」を学びます。この考え方は基本であり、大事にしなければいけません。

一般的な授業では、次の段階で、「 $1 + 2 =$ 」や「 $1 + 3 =$ 」などの練習問題をこなし、答え合わせをして授業が終わります。

しかしこれだと、足し算というスキルは身につきますが、考える力は育ちにくいと考えます。

探究では、「 $1 + 1 =$ 」の基本を押さえた後、「答えが3になる方法を考えられるだけ考えよう」という展開になります。そうすると、答えは無限ですね。「 $6 + (-3) =$ 」みたいなことを考える生徒も出てくるでしょう。数学が好きな（得意な）生徒は、「 $1.5 + 1.5 =$ 」ということを考えるかもしれません。こういった考えをグループで発表し合ったりして、みんなで力を高めて授業が進んでいくのです。

金津中学校で授業を参観する機会があったときには、こういった「探究」という指導法の授業もぜひご覧いただけたらと思います。

本校の教員は、授業の指導法について常にブラッシュアップしています。

